

1. 基本情報

- (1) 国名：インド
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：タミル・ナド州（人口7,200万人）
- (3) 案件名：全インド医科大学マドゥライ校整備計画 (Project for the Setting-up of All India Institute of Medical Sciences Madurai)
- (4) 計画の要約：
本計画はタミル・ナド州マドゥライ市において、南インド地域の中核的医療研究拠点として全インド医科大学マドゥライ校の整備を行うことにより、質の高い医療サービスへの貧困層のアクセス改善、高水準の医療関係人材の育成及び同地域における人材供給に貢献し、もって同国のユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

(1) 本計画を実施する外交的意義

インドは、民主主義や人権、法の支配といった基本的価値を共有するインド太平洋地域の主要国の一つ。首脳の間で年次相互訪問も行われており、2018年10月のモディ首相訪日時には「日印の共通のビジョンに基づき、自由で開かれたインド太平洋に向けて協働していくという揺るぎない決意」を改めて述べるなど、両国の関係強化が着実に進んでいる中、円借款をはじめとするODAを通じて、経済・社会開発を進めるインドの取組を支援することは、戦略的観点からも非常に重要である。

全インド医科大学 (All India Institute of Medical Sciences。以下「AIIMS」という。) については、以下(2)に詳述のとおり地域の医療機関のリーダー的役割を果たしており、インド政府の重要施策でもあるAIIMSの全国展開を日本が支援する外交的意義は大きい。また、日本は本件が位置するタミル・ナド州で一次、二次及び三次医療機関に対してこれまで支援を実施してきたことから、本件は、先方のニーズも踏まえつつ、これら既往支援を通じ培われた知見・ネットワークも積極的に活用することで、地域の医療システム構築に日本が貢献する好事例となりうる。

(2) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

インド政府は、経済発展と均衡のとれた社会発展を達成するため、社会サービス改善に向けた政策を着実に進めている。保健医療分野においては、全国的に一次医療施設の整備や医療人材育成政策等を進めた結果、乳児死亡率や妊産婦死亡率に着実な改善が見られているが、医療サービスへのアクセスは地域格差が大きく、特に地方部においては二次、三次の公的医療機関の不足や医療人材の不足が課題となっており、高度な専門医療を提供できる公的医療機関の新設、十分な医療人材及び医療人材育成拠点の拡充並びに地域に根差した医療研究機関の強化が喫緊の取組事項となっている。

かかる状況を受け、同国政府は、全国的な公的・高度医療サービスへのアクセス及び質の改善のため、2003年に「首相保健安全プログラム (Pradhan Mantri Swasthya Suraksha Yojana。以下「PMSSY」という。)」を開始。PMSSYは信頼できる高度な医療

サービスの無償提供を通じて、医療サービスの地域間格差是正と世界水準の医科大学・教育機関の増設を目指しており、公的高度医療サービスへのアクセスが限られた地域を選定して全インド医科大学を順次建設し、①国内最高水準の医療サービス提供機能、②医療人材育成機能、③医療研究機能を併せ持つ国立医療機関の整備に取り組んでいる。

マドゥライ市の位置するタミル・ナド州は、インドにおいて最も都市化が進んだ州の1つであり、感染症や母子保健といったプライマリーヘルス指標においては模範的な州のひとつである一方、地域内格差が課題となっている。特にマドゥライ市から南部では、二次、三次医療施設の整備が非常に遅れており、貧困層は専門性の高い検査や治療のため、チェンナイ市等遠方の大都市への移動を余儀なくされている。

かかる状況下、全インド医科大学マドゥライ校整備計画（以下「本計画」という。）は、上述のインド政府の計画に基づいてタミル・ナド州マドゥライ市にAIIMSを新設するものであり、同州の貧困層に加え、隣接するケララ州、カルナタカ州等、南インド地域住民の質の高い医療サービスへのアクセスに貢献するものである。

3. 計画概要

(1) 計画概要

- ① 計画内容：大学と付属病院建設及び関連機材整備（三次医療施設及び教育・研究機関の整備）、コンサルティング・サービス（詳細設計、入札補助、施工監理等）
- ② 期待される開発効果：病床稼働率の向上（目標値：90%）、入院患者数、外来・救急患者数（目標値：3000人・70人／日）、患者紹介件数、医科大学登録学生数、教官、研究者充足率、タミル・ナド州における医者1人当たりの患者数（現状650人）、南インド地域住民の公的医療サービスに対する満足度向上、生活環境の改善等を想定。
- ③ 借入人：インド大統領（President of India）
- ④ 計画実施機関／実施体制：保健家族福祉省首相保健安全プログラム局
- ⑤ 他機関との連携・役割分担：協力準備調査にて詳細確認
- ⑥ 運営／維持管理体制：協力準備調査にて詳細確認

(2) その他特記事項

- F/S 報告書には施設規模算定根拠の記載がなく、需要に対して適正規模であるか精査が必要。また、借款対象スコープにつき同国と十分協議を行う必要がある。
- アジア開発銀行は、インド全土の都市部の貧困層支援を主な目的とした融資事業を実施中（2015年～2019年）。世界銀行はタミル・ナド州にて保健システム強化を目的とした融資事業の支援実績がある（2005年～2014年）。
- 環境社会配慮：本計画は「国際協力機構環境社会ガイドライン」（2010年4月公布）に掲げる影響を及ぼしやすいセクター・特性及び影響を受けやすい地域に該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断されるためカテゴリBに分類。
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）に該当し、協

力準備調査にてジェンダー主流化ニーズを確認する。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

インドにおける過去の類似案件では、インド政府内の事業承認プロセス遅滞、それに伴う事業パッケージの変更手続等の要因によりL/A調印から着工までに長期を要した。本計画においては、インド政府内手続を考慮した事業スケジュールの検討、円借款事業経験がない実施機関の体制構築及び必要となる技術的サポート提供の重要性を念頭においた案件形成に留意する。

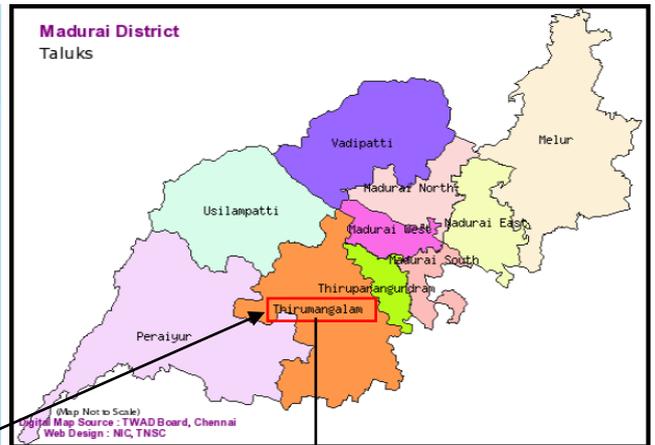
以上

[別添資料] 地図

タミル・ナド州地図



別添



AIIMS マドゥライ校の建設予定サイト



既存の AIIMS 9 拠点

- ① New Delhi (Delhi)
- ② Bihar (Patna)
- ③ Chhattisgarh (Raipur)
- ④ Madhya Pradesh (Bhopal)
- ⑤ Odisha (Bhubaneswar)
- ⑥ Rajasthan (Jodhpur)
- ⑦ Uttarakhand (Rishikesh)
- ⑧ Andhra Pradesh (Mangalagiri)
- ⑨ Maharashtra (Nagpur)

2019 年度以降開業或いは開発予定の AIIMS 13 拠点

- ① Uttar Pradesh (Gorakhpur)
- ② West Bengal (Kalyani)
- ③ Assam (Changrari)
- ④ Bihar (Darbhanga)
- ⑤ Himachal Pradesh (Bilaspur)
- ⑥ Jammu (Vijay Pur)
- ⑦ Kashmir (Awantipura)
- ⑧ Punjab (Bathinda)
- ⑨ Gujarat (Rajkot)
- ⑩ Jharkhand (Deogarh)
- ⑪ Telangana (Bibinagar)
- ⑫ Haryana (Rewari)
- ⑬ Tamil Nadu (Madurai)

計 22 拠点

※インド政府実施の F/S 結果及び 2019 年 3 月時点公開情報に基づき記載